



「Enchanted Owl」(魅惑のフクロウ, 1960 / ケノジュアク・アシェバク作)

北極圏を大航海



航海：2015年7月17日～29日

生涯の思い出となる体験
を求めて、私と一緒に
旅に出ましょう！

C.W. ニコル



Adventure Canada
14 Front St. S.
Mississauga ON, L5H 2C4, Canada
Tel: 905-271-4000



info@adventurecanada.com
www.adventurecanada.com

* カナダからグリーンランドを巡る北極圏のアドベンチャークルーズ

* スペシャルゲストとして、ナチュラリスト C.W. ニコル氏が同乗

* 巨大な氷山が浮かぶフィヨルドの海へ。ホッキョクグマ
ジャコウウシ、クジラなど、北の野生動物との遭遇チャンスも

* 最果ての村々を訪れ、日本の浮世絵の
技法に学び花開いたイヌイトアートを探訪



アドベンチャーカナダは北極圏を愛するスワン家が運営しています



ジャコウウシ バングナータング



北の大自然の中へ この感動と驚きを 分かちあいましょう

「アドベンチャーカナダ」は、26年間にわたって北極圏の冒険旅行を提供しているクルーズ会社です。長年を通じ、北の民イヌイットと良好な関係を築き、その自然や野生動物などに対する貴重な知識や文化を学び、皆様の船旅に活かしてまいりました。

2015年、この経験を日本の皆様と分かち合うため、スペシャルクルーズを企画しました。カナダ北極圏からグリーンランドまでを巡り、極北の大自然と、日本とも深いつながりをもつイヌイットアートを探訪するエキサイティングな13日間の旅です。特別ゲストは、北極圏に詳しいナチュラリストのC.W. ニコル氏、カナダの映画監督でイヌイットアート研究の第一人者でもあるジョン・ヒューストン氏、そしてバンクーバーの有名和食シェフ東條英員氏の3名。彼らと共に、手つかずの自然を全身で堪能、また小さな村々でイヌイットと交流し、その場で息づく日本ゆかりのアートに触れ、そして獲れたての北の食材をおいしくいただく…、そんな奥深い旅を実現します。

もちろんクルーズの途中では、ホッキョクグマをはじめ、ジャコウウシ、セイウチ、そしてベルーガやクジラなど、北の野生動物に出会うチャンスも豊富にあります。カメラが手放せない13日間となることでしょう。

お客様の3分の2はカナダをはじめ欧米の方、そして3分の1は日本の方となる予定ですので、船内では国際交流も楽しんでいただけます。もちろん複数の日本語堪能なガイドが同乗しますので、日本の皆様にも言葉のストレスを感じることなく旅を満喫していただけます。さらに現地の事情に詳しいイヌイットのガイドも同乗します。毎晩、食事を共にし、私自身をはじめ、大勢のガイドやスタッフ、そして特別ゲストのみなさんと会話を弾ませる、そんな気さくでカジュアルな雰囲気もこのクルーズならではといえます。

北極圏の大自然地帯で、一生の思い出となる貴重な日々を、ぜひ一緒に過ごしましょう。(アドベンチャーカナダ マシュー・ジェームス・スワン)

3人のスペシャル ゲストが同乗

C.W. Nicol (C.W. ニコル)

作家、ナチュラリスト。カナダ水産調査局北極生物研究所の技官として15回の北極圏探検を敢行。その後、世界各国で自然保護活動に従事。1980年から長野県在住。荒れ果てた森を購入し「アフアの森」と名づけ、自然再生活動を始める。1995年日本国籍を取得。2005年、英国エリザベス女王陛下より名誉大英勲章を賜る。



John Houston (ジョン・ヒューストン)

映画監督、イヌイット・アート・ギャラリーのオーナー。イヌイットアート開花の立役者ジェームス&アルマ・ヒューストンを両親にもち、幼少時をバフィン島ケープ・ドーセットで過ごす。北極圏を舞台にした映画製作で数々の賞を受賞。過去23年間、イヌイット文化のエキスパートとしてアドベンチャーカナダのクルーズに参加。



写真：DENNIS MINTY

Tojo Hidekazu (東條英員)

世界的に知られる、バンクーバーの和食店Tojo'sのオーナーシェフ。鹿児島県出身、大阪で料理修行を行い1971年にカナダに移住。地元のシーフードを使った独自の創作和食を提案し評判となる。北の海で捕れる魚の大ファンで、今回のクルーズでは訪れる各村々で新鮮な魚を手に入れ、独自料理を披露する予定。



写真：LEILA KWOK

迫力の北極圏 大冒険クルーズ

月日	主要訪問地	内容
		オタワまでは、各自お出でください。オタワ空港近くのアドベンチャーカナダお泊めのホテルをご紹介します。出発前日夕方にホテルで出発案内ブリーフィングを開催します。
7/17	クージュアック Kuujuuaq	早朝、オタワからのチャーターフライトでケベック州北部にあるクージュアックへ。ウンガバ湾から48km川をさかのぼったこの村はケベック州のイヌイット居住地域ヌナビックの中心地。ここから客船オーシャン・エンデバー号に乗船し、出航します。
7/18	アクバトク島 Akpatok Island	ウンガバ湾を航海し、アクバトク島へ。ソディアックに分乗し、絶壁の崖や、荒々しい岩の海岸周辺を探検。そそり立つような崖のふもとではしばしばエサを食べるホッキョクグマの姿に出会えます。
7/19	カンギスジュアック Kangijsujuak (Wakeham Bay)	ハドソン海峡に入り、イヌイットの村カンギスジュアックへ。500mもの高さの岩山に囲まれた中に豊かな谷間が広がる、美しい場所です。狭い港に入っていく際には、18億年前にはヒマラヤ級だったという迫力の山々を見上げることができます。
7/20	ディグジス島 Digges Islands	ケベック州最北端、水際から数百メートル垂直に切り立った断崖のディグジス島へ。ここではハシブトウミガラスをはじめとするさまざまな海鳥の集団が見られるでしょう。ソディアックで島の反対側に上陸、かつて人が暮らしていた遺跡を探検します。
7/21	ケープ・ドーセット Cape Dorset (Kinngait)	「イヌイットアートのフィレンツェ」ケープ・ドーセットへ。1950年代、この地の人々もつ生活道具作りの技法が彫刻や版画に活かされ、花開きました。ローカルアーティストと会い、作品を購入するチャンスも。特別ゲストのジョン・ヒューストンはこの地で育ちました。歓迎の笑顔が待っていることでしょう。
7/22	キミルト Kimmirut	バフィン島の南、美しいイヌイットの集落キミルトに立ち寄ります。ここもイヌイットアートで知られ、素晴らしいギャラリーが見学できます。
7/23	サウス・バフィン・ South Baffin Coast	バフィン島南部の航海を続けます。途中数か所野生動物を観察したり、ハイキングをしたり、といったチャンスがあります。
7/24	バングナータング Pangnirtung	山々に囲まれた美しい村バングナータングへ上陸。特別ゲスト、ジョン・ヒューストンの父ジェームスはかつてここでも版画を教え、今では彫刻、版画、タペストリーで有名な芸術村となっています。ケープ・ドーセット、キミルト、そしてこの地を訪れたことで、イヌイットアート界でももっとも重要な3地区を制覇したといえます。
7/25 ~7/26	イースト・バフィン East Baffin	バフィン島東部のドラマチックなフィヨルド海岸へ。セイウチ、ホッキョクグマを見られるチャンスも。
7/27	ヌーク (グリーンランド) Nuuk (Greenland)	グリーンランドの首都ヌークへ。人口16,000人、大学や教会、にぎやかな店も集まる、北極圏の「ビッグシティ」です。
7/28 ~7/29	グリーンランド・ Coast Greenland Coast	フィヨルドの海岸線に沿って北上。途中、美しい漁村に立ち寄り、グリーンランドの田舎の生活を垣間見ることができます。さらに北半球では最長のソンドル・ストロームフィヨルドから国際空港があるカングェルルスアークへ。ここからチャーター便でトロントへと飛びます。夕方の予定です。トロント空港で解散。



日本にルーツを持つイヌイットアートの世界へ

今回のクルーズでは、極北の民イヌイットの集落を訪れ、彼らのアートに触れることも大きな目的としています。なぜなら、彼らが誇るアートのひとつ、イヌイット版画が、実は日本と深いつながりがあることを知っていただきたいからです。

イヌイットの高い芸術性を最初に発見したのは、ジェームス・ヒューストンというカナダのアーティストでした。1940年代、風景を描くためイヌイットの村を訪れた彼は、地元の猟師が作った小さな鹿の彫刻に衝撃を受け、いくつかを持ち帰ります。ソープストーンで作られたそれらの彫刻はすぐさま評判となり、1950年、ヒューストンはカナダ政府より正式に依頼を受け、イヌイットのアーティストを育てるべく、北極圏の村ケープ・ドーセットに赴任することとなりました。北の人々の生活の糧を確保するためにも、この活動は大変意味があるものでした。



彼の活躍により、イヌイットは多くの彫刻を発表。瞬く間に注目され、モントリオールやロンドン、ニューヨークなどの展覧会でも大成功を収めるまでになります。そんな折、ヒューストンに更なる可能性を感じさせる出来事が起こります。オスイトク・イペーリというイヌイット彫刻家が、同じタバコのパッケージをふたつ並べて眺め「これを作った人はすごい。両方全く同じに見える」とつぶやいたのです。彼らは印刷というものを知らなかったのです。驚いたヒューストンがその技術について説明すると、イペーリは「自分たちにもできると思う」と答え、こうして彼らの第2章が始まりました。

浮世絵の技術で開花した極北の版画

様々な資料を探したヒューストンは、雑誌で日本の版画を目にし「これだ」と決心します。1958年、東京にやってきた彼は、現代浮世絵作家の平塚運一に師事。棟方志功など民芸運動のさなかにいる芸術家たちとも交流しながら、3か月という短期間で広範な版画技術を習得しました。



ケープ・ドーセットに戻ったヒューストンは、日本で学んだことのすべてを地元のアーティストたちに伝えます。そして人々もこのやり方をすぐに吸収。木の育たないこの地では石を版木に、そしてアザラシの皮をステンシルに用い、2年ほどの間に浮世絵にルーツを發するイヌイット版画が次々と送り出されました。カナダ国立美術館に収蔵されている有名な作品「Enchanted Owl」（魅惑のフクロウ/ケノジュアク・アシェバク作）もこの時期に制作された作品のひとつです。

ケープ・ドーセット、キミルト、パングナータングなど、ヒューストンが指導を行った村では、今も大勢のアーティストが暮らし、彫刻や版画を作って生活しています。今回のクルーズでは、これらの村々も訪問する予定です。同行するスペシャルゲストのジョン・ヒューストンは、このイヌイットアートの立役者ジェームス・ヒューストンの子息です。ケープ・ドーセットなどで幼少期を過ごし、イヌイット語にも堪能。北の文化に対する両親の熱いハートを受け継ぐ彼と共に、その故郷の村々を訪れ、知られざる日本とイヌイットアートとのつながりを改めて探る――これは大変貴重な機会となるのではないのでしょうか。



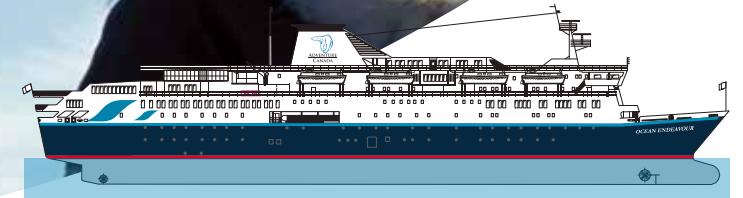
P4: 上) 「Arrival of the Sun」
—太陽の到来、1962/
ケノジュアク・アシェバク作
左・右) イペーリとジェームス・ヒューストン、そしてイペーリが見たタバコのパッケージ。ともに40年後の映画で本人たちが再現した1コマ P5: 1950年代、イヌイットに版画を指導するジェームス・ヒューストン

厳寒のケープ・ドーセットで作品を作るイヌイットの彫刻家ヌナ・パー

写真: 上) GRANT STONE: 下) COURTESY OF JOHN HOUSTON



Ocean Endeavour



カテゴリー 3



カテゴリー 4



カテゴリー 8



カテゴリー 5



カテゴリー 9



カテゴリー 6



カテゴリー 10



カテゴリー 7



ボーラー レストラン



ノーチラスラウンジ



サウナ

冒険旅行のために作られた オーシャン・エンデバー号

アドベンチャーカナダの旅に用いられる「オーシャン・エンデバー号」(マーシャル諸島船籍)は、北極海など特殊な環境下での航海を目的に作られた、冒険クルーズに最適な客船です。全長137m、最大198人乗りで、最新のナビゲーションシステムを備え、20艘のゾディアックを装備。1982年の完成後、数度にわたるリノベーションが行われ、2010年、2014年にも最新仕様にアップグレードされています。船内には観測ルーム、プールやサウナも楽しめるデッキなども整い、また3つあるラウンジでは、集まってセミナーなどを行い、またお酒を飲み、話をし、音楽を楽しみ・・・と、乗客の皆様、そしてスタッフとのコミュニケーションの場として、楽しくお使いいただけます。

キャビンは全室にシャワー & トイレ、国際電話が可能な電話、ラジオ、テレビ、エアコンが完備されています。このシンプルで快適な空間をベースに、迫力満点の北極圏航海をご堪能ください。

80歳でも現役探検家に

北の海を探検し、時にはゾディアックで荒々しい海岸に上陸、手つかずの大地をハイキング...そんな冒険旅行が楽しめるのがアドベンチャーカナダのクルーズです。かなりワイルドな旅に思われるかもしれませんが、特別な体力が必要というわけではありません。実際にお客様の中には80歳以上の方も大勢いらっしゃいます。もちろん必要に応じてスタッフが旅のお手伝いをいたしますし、またハイキングなどは体力にあわせて2チームに分けるなど、皆様に無理なく楽しんでいただけるようにしております。健康状態が良好な方であれば、年齢に関係なくどなたもご参加いただけます。

北極圏はどれくらい寒い？

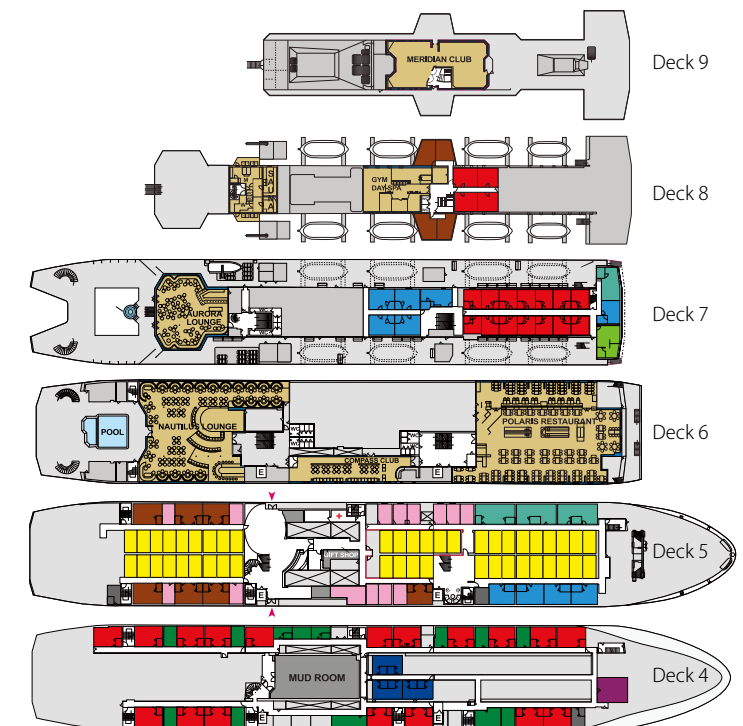
北極圏と聞くと、厳寒地を想像する方も多いのではないでしょうか。けれど7月中旬は意外にも暖かく、パフィン島やグリーンランドでも、日中は18度くらいまで気温が上がります。太陽はほとんど沈むことがなく、ツンドラの大地では可憐なワイルドフラワーが開花する、そんな季節です。もちろん風が強い海上などでは一気に冷え込むこともあるので、油断は禁物。1日のうちでTシャツからダウンジャケット姿へ、そんな早変わりを経験する日もめずらしくありません。重ね着が可能なウエアのご用意をおすすめしています。

キャビンカテゴリーと料金

カテゴリー	クルーズ料金 ※1人あたり 料金は、USDドル
カテゴリー1 クワッド 4F、内側・窓なし、4人部屋 (2段ベッドではありません) シャワー/トイレ	\$3,995.00
カテゴリー2 トリプル 4F、内側・窓なし、3人部屋 (2段ベッドではありません) シャワー/トイレ	\$4,995.00
カテゴリー3 内側ツイン 5F、内側・窓なし、2人部屋 シャワー/トイレ	\$6,395.00
カテゴリー4 海側ツイン 4F、海側・小丸窓、2人部屋 シャワー/トイレ	\$7,695.00
カテゴリー5 メインツイン 5F、海側・角窓、2人部屋 シャワー/トイレ	\$8,895.00
カテゴリー6 コンフォート・ツイン 4、7、8F、海側・小丸または角窓(一部 視界が妨げられます)、2人用部屋、ダブル ベッド1台、シャワー/トイレ、冷蔵庫	\$10,095.00
カテゴリー7 セレクトツイン 5、8F、海側・大角窓(一部視界が妨げら れます)または角窓2、2人部屋、ダブル ベッド1台、シャワー/トイレ、冷蔵庫	\$11,295.00
カテゴリー8 スーペリア・ツイン 5、7F、海側・角窓、2人部屋、ツインまたは ダブルベッド、シャワー/トイレ、冷蔵庫	\$12,595.00
カテゴリー9 ジュニア・スイート 5、7F、海側・角窓、2人部屋、ダブル ベッド1台、シャワー/トイレ、冷蔵庫	\$13,895.00
カテゴリー10 スイート 7F、船首眺望の角窓、2人部屋、ダブル ベッド1台、バス/トイレ、冷蔵庫	\$15,195.00

写真：(上) ANDREW STEWART
(下) LEE NARRAWAY (右)

※カテゴリー5-9のツインキャビンのシングルユース：料金の+50%
※カテゴリー3 & 4はシングルユースの追加料金はありませ
上記料金に含まれるもの・乗船料(カナダ・クーシェアックからグリーンランド・
カンケルルスアークまで)、クルーズ中の全食料、食事の際のコーヒー・紅茶・
乗船中の観光(ゾディアックボート含む)、ガイド料・港湾税・クーシェアック空
港から船まで、船からカンケルルスアーク空港までの送迎
料金に含まれないもの・お飲物、ミネラルウォーター・Discovery Fee \$250(環境
保護寄付金)・乗船中のチップ(目安：1日US\$15×13日=195)・日本-カナダ
の往復航空運賃・7/17オタワ→クーシェアック、7/29カンケルルスアーク→
トロントのチャーター航空運賃(US\$1,795 船会社でチャーター、お支払いは船
会社)・7/16オタワでの乗り継ぎ前泊および7/29トロントでの乗り継ぎ後泊ホテル
海外旅行保険(救急医療・搬送特約1000万円付き保険への加入が必須。キャンセル
特約付き海外旅行保険である「クルーズ保険」を推奨)



<重要事項>

※お支払条件
お申込金：お申し込み時、お1人様\$1000
残金：120日前までにお支払ください
※アドベンチャーカナダ キャンセル条件
お申込金お支払～出発121日前まで US \$500/お1人様
120日前～91日前 料金の65%
90日前～出発日 料金の100%
(料金は、クルーズ代金、チャーター航空便、ディスカバーフィー、乗り継ぎの際のホテルなど、アドベンチャー
カナダ社にお支払いいただいたすべてを指します)
※治療・救護費用付き海外旅行保険(必須)
本航海では、医療機関から遠い地域を運航するため、万々に備え1000万円以上の治療・救護特約付き海外旅行保
険への加入がお申し込みの条件となります。僻地からの救急搬送は、チャーター航空機、ヘリを飛ばすため、非常に
高額になります。クレジットカード付帯の旅行保険は、会員が医療費・救護費を立替え、後日払い戻しを受ける場
合がほとんどで迅速な対応ができないため、別途保険のお申し込みが必要です。
※健康状態によってはご参加いただけない場合があります。
※先着事項
お申込書と一緒に渡される。申し込み条件(日本語)をご参照ください。お申込みに当たっては、アドベンチャー
カナダ社のお申込書(別紙/英文)に必要事項をご記入の上、お申込書裏面の免責事項ほか重要事項説明を読んで
確認した旨のサインをしてご提出いただきます。お申込書の日本語訳は、お申込書と一緒に渡させていただきます。

